

レプリケーションモジュール使用方法

レプリケーションモジュールはRsyncの機能を使ってレプリケーション元のNASからレプリケーション先のNASへ共有フォルダー単位で常時ミラーリング(データの同期)を行います。2台のNASで常にデータが同期されるので、レプリケーション元のNASが故障した時に、レプリケーション先のNASを代用できます。

※故障した瞬間にファイルをコピーしていた場合、そのファイルはレプリケーションされません。

注意事項

- ・ ACL情報も同時にミラーリングされます。
- ・ 書き込むデータ量が大きい場合はCPUの負荷が増えるため、その他の機能のパフォーマンスが低下します。また、共有フォルダー内のフォルダー数が増えるに従って、レプリケーション機能自体のパフォーマンスが低下していきます。
大量のファイル/フォルダーを一度にバックアップする用途には適していません。別途「Rsyncスケジュールバックアップモジュール」を使ってクライアントPCからのアクセスが少ない時に定期的なスケジュールバックアップの実施を推奨します。
- ・ レプリケーションはエラーが発生しても停止しません。また、エラーが発生した際にダイアログは表示されません。定期的エラーログを確認して問題が発生していないか確認してください。
- ・ 複数の共有フォルダーから1つの共有フォルダーへまとめたレプリケーションは実施できません。複数のタスクを実施する場合、レプリケーション先にタスクと同数の共有フォルダーが必要です。

対象製品(レプリケーション元のNAS/レプリケーション先のNAS)

- ・ N-RAID 5500Kシリーズ
- ・ Thecus NAS N7700Pro(ヤノモデル:ファームウェア V5.x以降)

レプリケーション先のNASの準備

- ・ レプリケーション先のNASの空き容量は、レプリケーション元のNASのデータ容量と同じ、もしくはそれより大きい必要があります。また、RAIDのフォーマット形式(EXT4/XFS など)によって空き容量が異なります。事前にレプリケーション先のNASの空き容量に不足がないか確認してください。

admin画面へのログイン

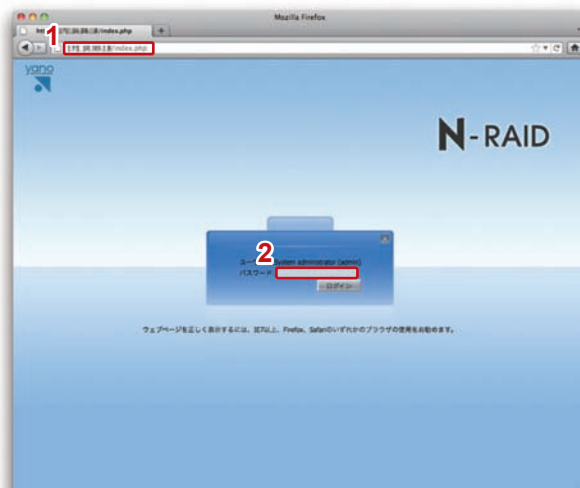
レプリケーションの設定はadmin画面より行います。

※レプリケーション元のNASとレプリケーション先のNASではIPアドレスが異なりますのでご注意ください。

ログイン

1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
2. パスワードを入力してadmin画面にログインします。

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのものであります。



ユーザー/グループ情報の設定

レプリケーション先のNASにACL(アクセス権)情報を反映するために、レプリケーション元のNASのユーザー/グループ情報をあらかじめレプリケーション先のNASへコピーしておくことを推奨します。

※Rsyncスケジュールバックアップを使用している場合など、レプリケーション先のNASにレプリケーション元のNASと同じユーザー/グループ情報が設定されている場合は次頁「レプリケーション先のNASの設定」に進みください。

ユーザー/グループ情報のダウンロード (※レプリケーション元のNAS)

ログイン

1. **レプリケーション元**のNASのadmin画面にログインします。

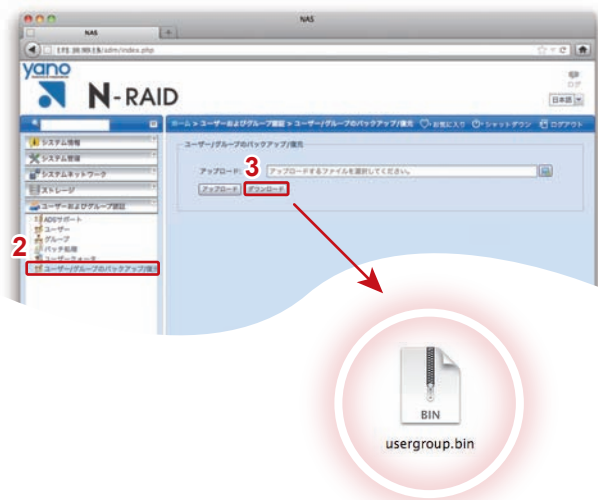
ホーム

2. 「ユーザーおよびグループ認証」から「ユーザー/グループのバックアップ/復元」をクリックします。

ホーム>ユーザーおよびグループ認証>ユーザー/グループのバックアップ/復元

3. 「ダウンロード」ボタンをクリックします。

※レプリケーション元のNASのadmin画面



ユーザー/グループ情報のアップロード (※レプリケーション先のNAS)

ログイン

1. **レプリケーション先**のNASのadmin画面にログインします。

ホーム

2. 「ユーザーおよびグループ認証」から「ユーザー/グループのバックアップ/復元」をクリックします。

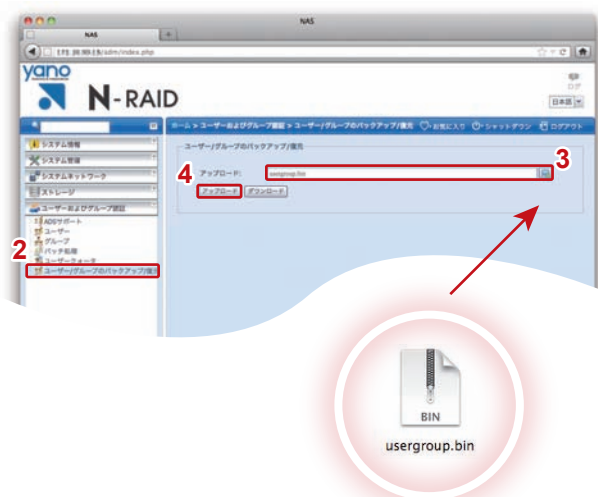
ホーム>ユーザーおよびグループ認証>ユーザー/グループのバックアップ/復元

3.  ボタンをクリックし、レプリケーション元のNASよりダウンロードした設定ファイル(usergroup.bin)を選択します。

4. 「アップロード」ボタンをクリックします。

※ ユーザーのパスワード情報はアップロードされません。ユーザーを使用する場合は、パスワードの再設定を行ってください。

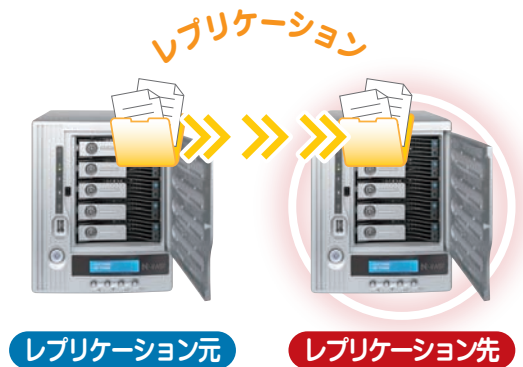
※レプリケーション先のNASのadmin画面



レプリケーション先のNASの設定

レプリケーションの設定は、「レプリケーション元のNAS」
「レプリケーション先のNAS」それぞれに行います。

まずは「レプリケーション先のNAS」から設定します。



レプリケーション先のNASの設定

ログイン

1. レプリケーション先のNASのadmin画面にログインします。

既に別モジュールのために[Rsync設定]が行われている場合は、
次頁の**手順7**にお進みください。

[Rsync設定]が行われていない場合は、**手順2**にお進みください。

ホーム

2. 「バックアップ」から「Rsyncターゲットサーバー」をクリック
します。

ホーム>バックアップ>Rsync ターゲットサーバー

3. 【Rsync設定】項目にある「Rsyncターゲットサーバー」の有
効を選択します。

4. バックアップ専用の「ユーザー名」を入力します。

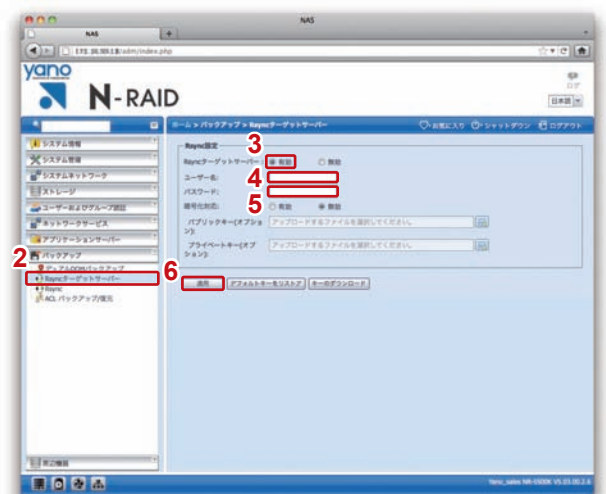
5. バックアップ専用の「パスワード」を入力します。

※ お客様がログインするためのユーザー名/パスワードと違っていても
構いません。

※ ユーザー名は半角英数で入力してください。

※ パスワードは半角英数4~16文字で入力してください。

6. 「適用」ボタンをクリックします。



レプリケーション先となる共有フォルダーを新規作成します。
 (※初期設定フォルダーおよび、既に作成された共有フォルダーは
 使用できません。)

ホーム

7. 「ストレージ」から「共有フォルダ」をクリックします。

ホーム>ストレージ>共有フォルダ

8. 【共有フォルダ】項目にある「追加」をクリックします。

ホーム>ストレージ>共有フォルダ>フォルダの追加

9. 「フォルダ名」を入力します。

10. 「パブリック」の選択をします。

11. 「適用」ボタンをクリックします。

※ レプリケーションを実行する前にクライアントPCからレプリケーシ
 ョン先の共有フォルダーをマウントしないでください。

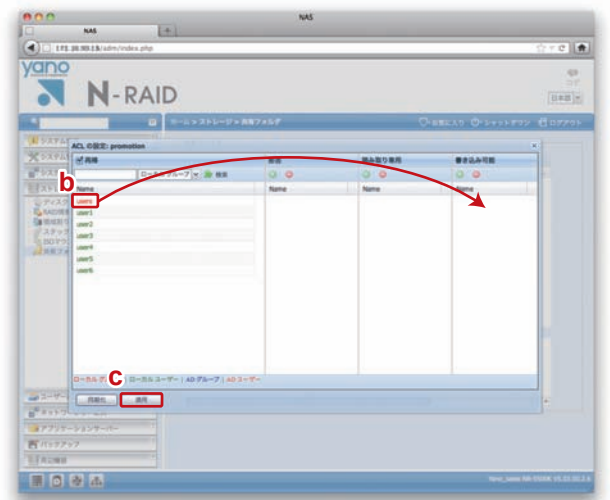
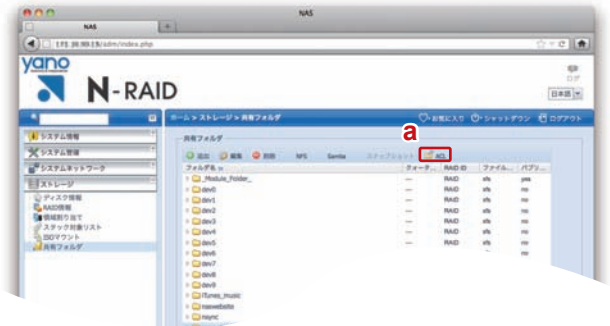
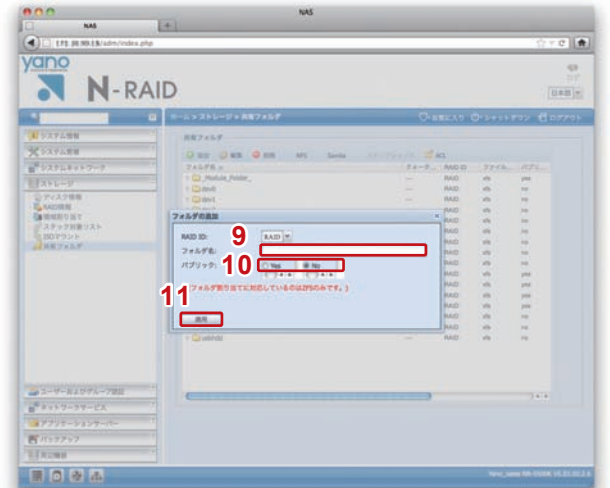
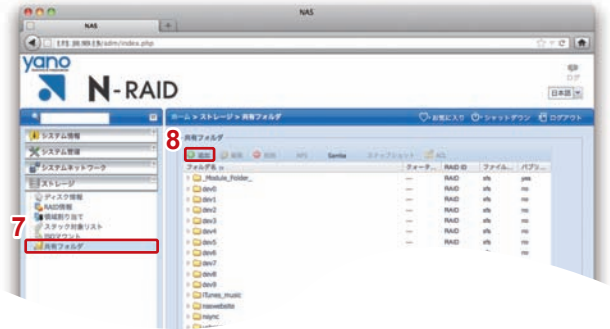
※ レプリケーション元の共有フォルダーのパブリック設定が「No」の場合
 手順9で作成した共有フォルダーの【ACL設定】において「users」を書
 き込み可能に設定してください。

ホーム>ストレージ>共有フォルダ

a. 手順10で作成した共有フォルダーを選択し「ACL」をクリックします。

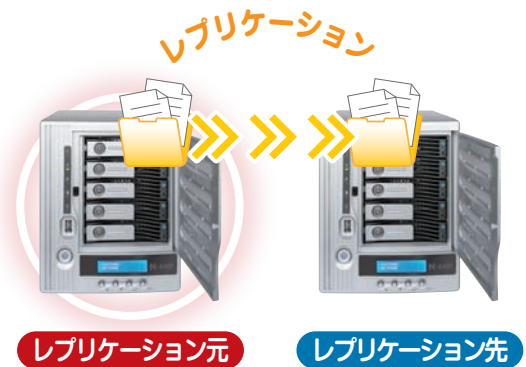
b. 「Name」一覧から「users」を「書き込み可能」欄にドラッグ&ドロップ
 します。

c. 「適用」ボタンをクリックします。



レプリケーション元のNASの設定

「レプリケーション先のNAS」の設定が終わったら、「レプリケーション元のNAS」の設定を行います。



レプリケーションモジュールのインストールと有効化

ログイン

1. **レプリケーション元**のNASのadmin画面にログインします。

ホーム


2. 「アプリケーションサーバー」から「モジュールのインストール」をクリックします。

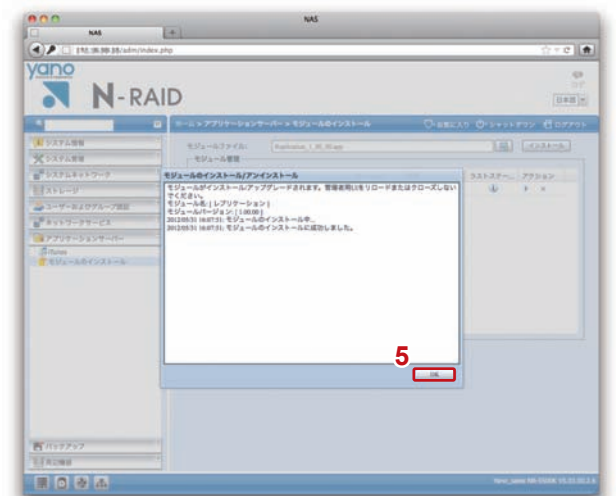
レプリケーションモジュールは弊社Webサイトよりダウンロードしてください。

(http://www.yano-sl.co.jp/download/soft/nas_replication.html)

モジュールがプリインストールされている場合は、次頁**手順6**にお進みください。

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュールのインストール

3.  ボタンをクリックし、モジュールファイル (Replication_1_00_00.app) を選択します。
4. 「インストール」ボタンをクリックします。
確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。
5. インストールが開始されます。
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



ホーム>アプリケーションサーバー>モジュールのインストール

6. 右側の【モジュールの管理】の中に表示されている「レプリケーション」のアクションボタン「▶」をクリックします。

確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。

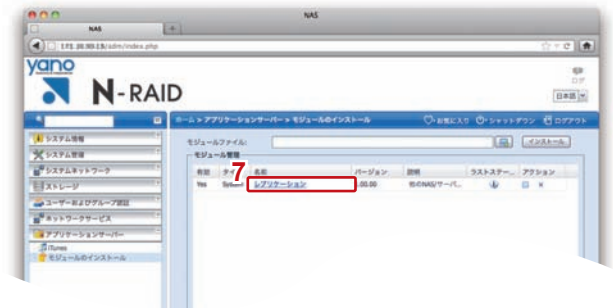
※右側に何も表示されない場合、モジュールを弊社Webサイトからダウンロードとインストール(前頁参照)をする必要があります。

※ダウンロード方法の詳細は弊社カスタマーサポートまでご連絡ください。

7. 「レプリケーション」をクリックします。



8. レプリケーションタスクの作成や編集を行う為の新しいウィンドウが開きます。



レプリケーションのタスクを作成／実行／編集／削除

■タスクを作成し、バックアップを実行する

新規ウインドウ

1. 「追加」をクリックします。

2. 以下の内容をそれぞれの項目に入力します。

タスク名	レプリケーション管理用の名称を入力します。
レプリケーション元	レプリケーション元の共有フォルダーを選択します。
レプリケーション先	レプリケーション先のNASのIPアドレス/共有フォルダー名を入力します。 (ポートの数値を変更する必要はありません)
ユーザー名	レプリケーション先の「Rsyncターゲットサーバー」で入力したユーザー名を入力します。
パスワード	レプリケーション先の「Rsyncターゲットサーバー」で入力したパスワードを入力します。

3. 高度な設定を使用する場合は、チェックを入れます。

※本オプションはコマンドラインによる設定に精通しており、自己責任において設定の変更/追加/削除を行える方のみご使用ください。

※デフォルト値は以下のとおりです。間違えて設定を変更してしまった場合は以下を入力し設定を戻してください。

```
-8Aclrtz --super --force --timeout=300 --exclude=.AppleDB
--exclude=/Network&nbsp;Trash&nbsp;Folder
--exclude=/Temporary&nbsp;Items
```

*「-」の前には半角スペースが入ります。

*上記のコマンドは全てを一行で入力してください。

※弊社は設定の変更について、一切のサポート/動作保証を行っておりません。

4. すべての項目を入力後、「追加」をクリックします。

5. トップ画面にタスクが追加されました。

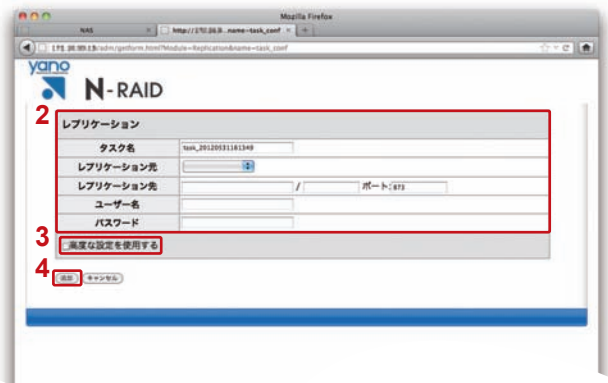
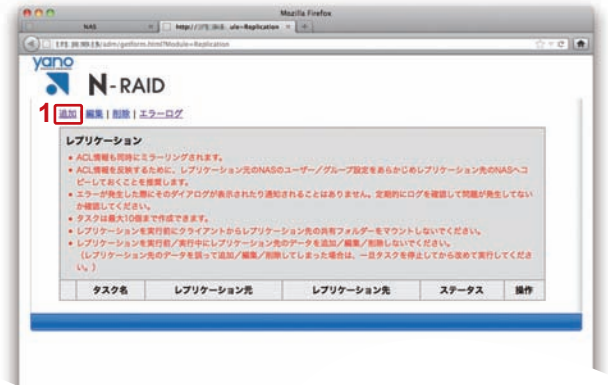
タスクの「実行する」をクリックするとレプリケーションが開始されます。レプリケーションを途中で停止する場合は「停止する」をクリックしてください。

※タスクは最大10個まで作成できます。

※レプリケーションを実行前/実行中にレプリケーション先のデータを追加/編集/削除しないでください。(レプリケーション先のデータを誤って追加/編集/削除してしまった場合は、一旦タスクを停止してから改めて実行してください)

※レプリケーション中は、NASの電源をOFFにしないでください。また、NASからネットワークケーブルを取り外さないでください。

※タスクを複数作成して同時に実行できますが、それにより全体のパフォーマンスが低下します。



■タスクを編集する

新規ウィンドウ

1. 編集するタスクのラジオボタンにチェックをします。
2. 「編集」をクリックします。

3. タスクの詳細画面が表示されるので、内容を変更して「適用」をクリックします。
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
4. タスクの変更内容が反映されます。



■タスクを削除する

新規ウィンドウ

1. 削除するタスクのラジオボタンにチェックをします。
2. 「削除」をクリックします。

3. 確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
4. タスクが削除されます。
※タスクを削除してもレプリケーション先のNASのデータは削除されません。データを削除するには共有フォルダーを削除するか、マウントして不要なデータを削除してください。



■レプリケーションしたデータを確認する

レプリケーション元と同様に、レプリケーション先のNASの共有フォルダーをマウントして、内容に問題がないか確認します。

※レプリケーション先のファイルやフォルダを変更/削除したり、ファイルやフォルダの追加を行わないでください。レプリケーションが正常に動作しなくなります。

問題がある場合は、エラーログを確認して問題の内容を確認してください。

※エラーログの内容でご不明な点がある場合は、弊社カスタマーサポートにご連絡ください。

■レプリケーション元のNASが故障したのでレプリケーション先のNASをメインで使用する

1. レプリケーション元のNASのadmin画面にアクセスできる場合は、レプリケーションを停止します。
※アクセスできない場合は、**レプリケーション先のNASにアクセスする前に**弊社カスタマーサポートにご連絡ください。
2. レプリケーション先のNASの共有フォルダーがパブリック「Yes」になっている場合は、下記のとおりアクセスしてください。
＜レプリケーション元のNASの共有フォルダーがパブリック「Yes」になっている場合＞
ゲストおよび全てのユーザーがアクセスできます。
＜レプリケーション元のNASの共有フォルダーがパブリック「No」になっている場合＞
ゲスト以外のユーザーはレプリケーション元のNASのACL情報が反映されています。
パブリックとして使用する場合はゲストでアクセスしてください。
3. レプリケーション先のNASの共有フォルダーにログインしてそのままデータをお使いいただけます。